

第 16 回尖石縄文文化賞

受賞者：水沢教子

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月25日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人計11件である。

候補者の内訳は、30歳代から80歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第16回尖石縄文文化賞の受賞者として、水沢教子氏（長野県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、土器に使われた粘土の分析、土器型式、土器の製作技術を総合的に検討し、縄文社会における土器の移動と人々の交流の実態に迫るもので、広域的な土器の分配や交換、集団の移動、情報の伝達の動態を示している。このことは、研究の新しい地平を展望するものであり、高く評価される。

さらに、千曲市屋代遺跡群から出土した動植物資料を詳細に分析し、特に縄文時代の人々の生業活動について、具体的にサケ・マスの捕獲の実態を明らかにした。

こうした氏の研究は、縄文人の行動や社会の解明に取り組んだ宮坂英弑の研究・業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2015年8月25日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会
委員長 小林 達雄



第16回受賞者 水沢教子氏